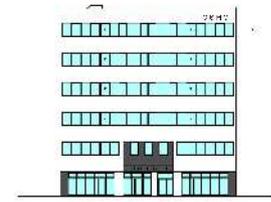


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)TOSHO BLDG南明治	階数	地下0階地上6階
建設地	愛知県安城南明治第一土地区画整理事業 27街区6号	構造	RC造
用途地域	都市計画地域内、市街化区域	平均居住人員	327 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年5月 予定	評価の実施日	2025年5月10日
敷地面積	816 m ²	作成者	石川 春乃
建築面積	390 m ²	確認日	2025年5月30日
延床面積	2,156 m ²	確認者	石川 春乃



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ BEE=1.0 C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.3</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.3</p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (仮称)TOSHO BLDG南明治

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物の全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
		Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境										3.0
1 音環境										3.5
1.1 室内騒音レベル										0.40
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										0.40
2 界壁遮音性能				資料①吉野石膏ハイパーウォールZ-WIスタッド65	3.0	3.0	0.60	3.0	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					5.0	0.40	3.0	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	3.0	-	-
1.3 吸音				A-02仕上表:床タイルカーペット、天井ロックウール吸音板	4.0	0.20	3.0	3.0	-	-
2 温熱環境										2.1
2.1 室温制御										
1 室温				省エネ計算結果(面積案分) 窓SC≒0.30窓U≒3.46外壁他U≒1.16程度	0.5	3.2	0.50	-	-	-
2 外皮性能					3.0	0.38	3.0	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性					3.0	0.25	3.0	3.0	-	-
2.2 湿度制御					3.0	0.38	-	-	-	-
2.3 空調方式					3.0	0.20	3.0	3.0	-	-
3 光・視環境										3.3
3.1 昼光利用										
1 昼光率				資料①-1昼光率2.80%	0.2	3.3	0.25	-	-	-
2 方位別開口					0.3	4.2	0.30	-	-	-
3 昼光利用設備					3.0	0.60	3.0	3.0	-	-
3.2 グレア対策					3.0	0.40	3.0	3.0	-	-
1 昼光制御					0.3	0.30	0.30	-	-	-
3.3 照度					5.0	1.00	3.0	3.0	-	-
3.4 照明制御					3.0	0.15	3.0	3.0	-	-
4 空気質環境										3.6
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				A-2仕上表:F☆☆☆☆の全面利用	0.5	4.0	0.50	-	-	-
4.2 換気					3.0	1.00	3.0	3.0	-	-
1 換気量					0.3	3.3	0.30	-	-	-
2 自然換気性能				資料①-2有効開口面積が床面積の1/30以上	3.0	0.33	3.0	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	3.0	3.0	-	-
4.3 運用管理					0.2	3.0	0.20	-	-	-
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御					3.0	1.00	-	-	-	-
Q2 サービス性能										3.3
1 機能性										3.5
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				E-5,E-20-23 コンセント容量、各階通信回線、テナントEPSの確保	0.4	3.5	0.40	-	-	-
2 高度情報通信設備対応					0.4	3.6	0.40	-	-	-
3 バリアフリー計画					3.0	0.33	3.0	3.0	-	-
1.2 心理性・快適性					3.0	0.33	3.0	3.0	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)					0.3	3.3	0.30	-	-	-
2 リフレッシュスペース				A-04求積図 湯沸室面積が執務室の床面積の1%以上	3.0	0.33	3.0	3.0	-	-
3 内装計画					3.0	0.33	3.0	3.0	-	-
1.3 維持管理					0.3	3.5	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				A-2仕上表:防汚性の高い内外装、資料②利用円滑化経路の整備	3.0	0.50	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					0.5	3.0	0.31	-	-	-
2 免震・制震・制振性能					0.4	3.0	0.48	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.80	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				②	0.3	3.1	0.33	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.09	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				K-01空調特記仕様書:冷媒銅管、M-1衛生特記仕様書:VP利用	3.0	0.08	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					4.0	0.15	-	-	-	-
2.4 信頼性					3.0	0.23	-	-	-	-
1 空調・換気設備					0.1	3.2	0.19	-	-	-
2 給排水・衛生設備					3.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備					3.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備				E-20-23 複数の通信手段TEL・LAN	3.0	0.20	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり				0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					3.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.8	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			E-03幹線系統図 EPS内にケーブルラック設置	3.0	5.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			E-03幹線系統図 EPS内にケーブルラック設置	3.0	5.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			K-05R階空調平面図:将来用空調室外機置場の確保	3.0	4.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			K-05R階空調平面図:将来用空調室外機置場の確保	3.0	4.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.72	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.64	3.0	4.6	0.30		-	-	4.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価								-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.1
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			M-03衛生設備器具表、資料④節水便器	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63		-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②			3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	1.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	A-15矩形図:壁LGS下地、床OAフロア	3.0	5.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22		-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			資料⑤MSDS壁紙接着剤ルーアマイルド	3.0	4.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率74%		4.0	0.33		-	-	4.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自			3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自			3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自			-	-		-	-	
3 悪臭					-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート
(仮称)TOSHO BLDG南明治

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10
② 資源の有効活用			3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)TOSHO BLDG南明治

計画上の配慮事項	
総合	安城市役所の南東側の土地区画整理事業内に立地する、1階部分を店舗とする事務所ビルである。市役所周辺の新しいまちづくりを意識し、今後の周辺整備の先行する建築物を目指す。建築物単体では、省エネ設計値が適合基準を満たす省エネルギー性能を目指し、施工性や維持管理を意識したコストバランスを実現できる、快適な室内環境の整備を行う計画とする。
Q1 室内環境	事務所の執務環境を考慮し、空気質の安全確保や採光による昼光率向上を実現した。
Q2 サービス性能	建物利用者のみでなく、建物維持管理作業従事者への配慮も行っている。標準的な維持管理仕様ではあるが、配管仕様を高品質とし、継続的なメンテナンスしやすさを考慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内植樹など緑地計画や景観に関しては、建物配置計画による制約の中で、量の確保が十分といえない。一方、防犯性の観点からは見通しの良いフェンスの設置等、周辺環境に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー	建築外皮への熱負荷を抑制する建築仕様を徹底した。また、建築物の1次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選定に努めた。
LR2 資源・マテリアル	再利用可能な部材、リサイクル材の利用に関しては十分な取り組みとは言えないが、有害物質を含まない建築材料については積極的に採用した。
LR3 敷地外環境	周辺は住宅街、学校、市役所、公園など、地域住民が利用する施設が多くある。事務所の1階に店舗部分を設け、周辺住民や地域に開けた建物を目指した。また、駐車場の台数確保など、建物利用者の日常使いがスムーズになるよう配慮した計画とした。
その他	